三井　利仁　団長（日本パラ陸上競技連盟理事長）総括

リオパラリンピックが終わった後、今大会でのメダル数、入賞者数を見ると、この 3 年間の強化が着実に成果が出ていると感じる。その中で、佐藤友祈選手、中西麻耶選手の金メダルはよくやったと褒めたい。

中西選手はこの 10 年近く思ったような結果が出ない時期もあり苦しんだと思うが、この大会で金メダルが獲れて良かったと思う。今後、更に成長してくれるのではないかと思う。若手選手では大学生を中心とした選手達が良い成績を残してくれた。これまで活躍した選手達（ベテラン）と若手の台頭が 2020 年に向けて良い形で表れたのではないか。

2020 年東京パラリンピックに向けて連盟から今大会 3 名の審判の方を研修に派遣しました。来年のスターター、フィールド責任者、技術総務のポジションに研修してもらい、海外の方々とコミュニケーションが取れた事は 2020 年に向けて大きな財産になるだろう。

今大会派遣はしたが、世界と大きく距離が置かれている競技も見受けられた。日本ではトップクラスでも世界では大きく後れを取っているクラス、種目もあり、今後、その種目の担当強化コーチと話をして残り少ない期間ではあるが、しっかりと詰めていきたいと思う。

パラリンピックは、マルチメダリストを持てるかどうかかが各国の戦略の一つになっている。（ドイツの義足、ブラジルのブラインドなど）今、日本の現有戦力を選んでいくと日本は T52 クラス男子となる。佐藤、伊藤などでメダルを確実に獲得しメダル数を量産することは間違いではないと思う。（海外との）距離が置かれている種目についても十分勝負はできるとは思う。タイムなどを比較すれば決して負けてはいないはず。戦略面などを再度コーチと見つめ直していきたい。

2020 年東京パラリンピックでも今大会くらいのメダルは獲得していきたい。これにマラソンも追加されていく。他の国も相当レベルが上がってきている。アジアパラではイランのレベルが上がったと感じた。インド、スリランカなども上がっている。

走り幅跳びの選手の活躍には、中西選手には荒川コーチ、兎澤選手にはポポフ氏などの指導がしっかりしており、結果伸びているのではないかと思う。パーソナルコーチの重要性を感じている。